

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

	No.	タイトル	自治体名
地域課題タイトル (注)	10	データや情報を活用して、流山市を好きになる 人を増やしたい	流山市
アイデア名 (公開)	流山オープンデータラボ		

(注)地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	Code for NAGAREYAMA		
チーム属性(公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名(公開)	白澤 美幸	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示-非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学 公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様でお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明(公開)

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア(公共サービス)のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、だれがする、何を、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。(必要に応じて図表を入れても構いません)

【流山市の紹介】

- 都心から一番近い森の街

千葉県北西部に位置し、都心から約 25km、秋葉原からつくばエクスプレスで 20～25 分。宅鉄法に伴い、鉄道と宅地（区画整理事業）を一体開発中。面積 35.32km 人口 179,644 人（11 月 1 日現在）
目指すべき都市のイメージは「都心から一番近い森の街」

- 流山市を取り巻く環境変化

江戸時代は醸造業で栄え、白みりんは流山市発祥と言われている。その後は、都心へ通勤するファミリーが住むベッドタウンとして発展してきたが、目立つ観光資源や特産品、企業が少なく、全国的に流山市の知名度やイメージが高いとはいえなかった。

平成 18 年につくばエクスプレスが開業し、都心へのアクセスが 20 分台と良くなった。電車開業前に、基礎自治体では初となるマーケティング課を平成 15 年に設置し、首都圏在住の共働き子育て世帯（DEWKS）を対象に定住人口を増加させるためのさまざまなプロモーションを行っている。

人口はつくばエクスプレス開業前と比べ、約 25,000 人増加、年齢別人口では 30 歳から 40 歳代の人口が全体の 3 割を超え、4 歳以下の子どもの数も 2,700 人ほど増えている。全国的に稀有な成功事例として、全国から視察が相次いでいるが、現状は増加している子どもに対して子育て環境の整備を量、質とも確保していくのが課題である。

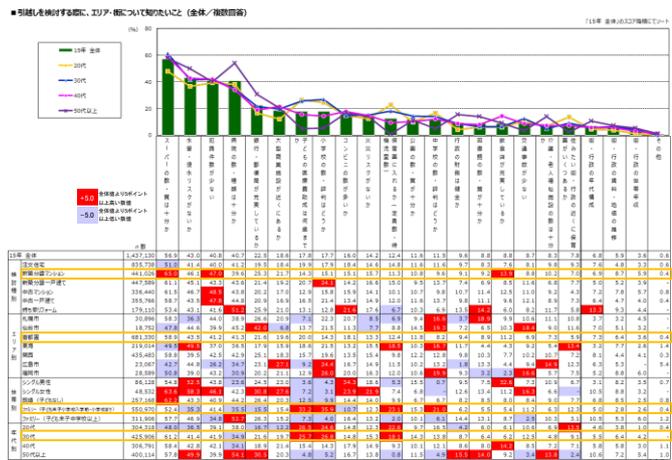
【アイデア検討の背景】

- 流山では、TX 開通に合わせた都市開発と、「母になるなら、流山市。」というキャッチフレーズを基にしたマーケティング展開が功を奏し、人気地区として認知され、周囲からの人口流入政策が成功している。
<論拠データ①>
- 一方で、人口流入政策成功の裏では、局所的にファミリー層の人口急増が起こり、それに対応する住環境・子育て・教育環境の整備が追い付いていない状態である。
<論拠データ②>
- これにより、「母になるなら、流山市。」に期待を抱いて転居したにも関わらず、待機児童が増えている、地縁がなく周りに相談する人がいない等、現実の住環境・子育て・教育環境のギャップに直面する住民の不満の声が出始めている。
<論拠データ③>

【解決策の方向性】

- 流山市としては、人口流入は歓迎すべき現象で、それを抑制することはしない(できない)一方で、転居後の期待ギャップは解消したいと考えている。
- 解決のポイントは、受動的態度層(フワツとしたイメージに基づき行動する層→「フワツと層」)に対して転居検討時に流山の課題も含めた生の情報をインプットし、吟味をしてもらう事。これにより「それも承知の上で」流山を選び、能動的な姿勢(十分に情報収集・吟味をして中身を詰めた上で行動する層→「ソリッド層」)となり転居・地域生活に入って頂く事をゴールとした。
- 但し、まだ広範な地域を対象として転居の検討をしている初期段階において、流山の課題を周知するのは効率的ではない。このため、流山への転居見込み層が接点となるマンションデベロッパーやハウスメーカーを介して、物件検討者に流山の課題をインプットする為の施策を具体的アイデアとして落とし込んだ。
- また、受動的態度から能動的態度(ソリッド層)に転換した住民に対しても、転居後に積極的に地域活動に参加してもらうための仕掛け・仕組みも併せて検討した。

街選びの際に知りたいこと



【施策の具体的アイデア】

上記の方向性を前提に、我々のできる事のアイデア出しを行った。

1. 流山オープンデータラボ(データビジュアライゼーションサイト)
2. Humans of NagareYama ~流山の人々~(流山で暮らす「人」のルポルタージュサイト)
3. 流山データ分析入門講座(地域オープンデータ利活用フォーラム&ワークショップ)

以下、個別に説明

1. 流山オープンデータラボ

● コンセプト

「流山オープンデータラボ」は、流山市の過去～現在～未来の姿をデータビジュアライゼーションを使って発見・発信していくコミュニティです。近い将来、街を訪れる潜在的な課題や他の自治体との特徴的な差異など、普段の生活の中ではなかなか気づくことのできない、流山市の「リアル」を分かりやすい表やグラフなどのデータビ

ジュアライゼーションで切り取って発信していきます。トピックに対する自由な感想や意見を交換し、街をより良くするための議論を深めるきっかけになることを目指します。対象は、流山在住の方々あるいは転入を検討しているの方々、流山市について理解を深めたいと考えているすべての方々です。また今後、継続的に多くの方に情報発信してもらえる環境づくりとして、データの入手方法や分析の基礎、ビジュアライゼーションツールや使い方などのサポート情報も発信していく予定です。(画面イメージ、上図)

● 構成

1トピック1データ(表・グラフなどのビジュアルブロック)が基本。有志メンバーは流山に関する問題提起や改善提案など、データの示す事実に基づいてブログ形式で自由に情報を発信していきます。

● ポリシー

むやみに不安を煽るような文章や、特定の人物・団体を中傷するような内容は発信しない。データに基づいた事実と、より良くするためのポジティブな提案であることを基本とする。発信者は、データの出典や提案者を明確にし、それを確認する術を用意することで、情報の対称性維持に努める。

● サイトについて

一般向け URL

<http://scout-withdrawal-60480.netlify.com/>

制作者向け GitHub(デプロイ前)

<https://github.com/nlabo/opendata/tree/master/content/posts>



2. Humans of NagareYama ～流山の人々～

- コンセプト

「Humans of NagareYama」は、流山で暮らす様々な人々にフォーカスしたルポルタージュサイトです。街の人々の「リアル」を切り取り、そこでの暮らしぶりの良いところや課題となりそうな部分などその人の個人的な想いを包み隠さずお届けします。ルポ+事務局が追加した客観的なデータや解説を見ることで今後流山市に求めること、求められることが発見できるかもしれません。「地元で誰かと繋がりたい」想いを抱える流山の人々のPRの場としても使えるような、市民が主役のメディアを目指します。

- 構成

1トピック1データ(表・グラフなどのビジュアルブロック)が基本。有志メンバーは流山に関する問題提起や改善提案など、データの示す事実に基づいてブログ形式で自由に情報を発信していきます。

- ポリシー

むやみに不安を煽るような文章や、特定の人物・団体を中傷するような内容は発信しない。データに基づいた事実と、より良くするためのポジティブな提案であることを基本とする。発信者は、データの出典や提案者を明確にし、それを確認する術を用意することで、情報の対称性維持に努める。

3. 流山データ分析入門講座

CodeForNagareyama 拡張版としての不定期開催を予定しています

● コンセプト

多くの人に地域オープンデータやその活用に興味を持ってもらうためのフォーラム&ワークショップ。

● 背景

昨今多くの自治体では様々な情報公開を進め、透明性、納得性の高い自治体運営であることに力を注いでいます。世の AI や機械学習技術の進化によりデータ分析技術は格段に進み、その知見をオープンソースライブラリとして無償で公開する流れが強まっており、データとそれを分析する技術が市民の手の届くものになってきています。しかしその一方、提供されるそのデータの扱い難さに関する問題や、それを活用するために必要な市民の情報リテラシーなどの課題があり、十分にオープンデータ活用が進んでいるという状態にはありません。



そこで、その間をつなぐために必要な知識や技術を学習する場を有志によって創出していきます。基礎的なデータ分析技術や元となる課題抽出の方法論など、日常的に使える技術・知識のレクチャーも兼ね、学生から中高年までの参加モチベーションを高められるカリキュラムを用意。長期的な視点でデータ分析を行える人材を輩出していくことで、市民発のデータ分析・発信を促進していく。

● 構成(案)

- データの種類
 - pdf/csv/xls/txt
- データ公開事例
- データの収集方法オープンデータ
 - WEB API の活用/WEB スクレイピング/IoT の活用
- データの操作クレンジングの手法
 - ✓ プログラミングの初歩
 - Bash/Python/R
- 分析手法の種類
 - 回帰分析・重回帰分析/クラスタ分析/機械学習・強化学習/自然言語処理
- クラウドを使った分析
 - ✓ Google Cloud Platform
 - BigQuery/CloudDatalab/Data/Microsoft Azure
- 一連の分析自動化
- データビジュアライゼーション
 - ✓ Business Intelligence
 - Google DataStudio/Tableau/D3.js
- データの公開方法
 - WEB ホスティング/ブログの開設/SNS への投稿

(2) アイデアの論拠(公開)

アイデアの論拠(なぜこのアイデアにするのか)を、それをサポートする数値データ(実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの)や証拠(資料や計画、既存の施策など)(以下:総称して「データ類」といいます)などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いいたします。

<論拠データ①>

流山市は、平成17年と比較して人口が2万人以上も増加している

① -1 流山人口増グラフ.jpg (下図右)

<http://www.city.nagareyama.chiba.jp/appeal/9577/009582.html>

① -2 全国転入超過上位市町村一覧(下図左)

出典: 総務省 統計

平成27年度 全国転入超過上位10	人口	転入総数	転入数/人口	0~4歳 転入数/人口	5~14歳 転入数/人口	30~44歳 転入数/人口	65歳~ 転入数/人口
1 東京都特別区部	9,357,221	68,917	0.7%	-0.06%	0.01%	0.04%	-0.07%
2 大阪市	2,702,501	11,662	0.4%	-0.12%	-0.02%	-0.04%	-0.01%
3 福岡市	1,549,839	8,880	0.6%	-0.03%	0.01%	0.02%	0.05%
4 札幌市	1,946,148	8,173	0.4%	0.00%	0.04%	0.04%	0.12%
5 川崎市	1,486,578	7,869	0.5%	-0.09%	-0.04%	-0.03%	0.00%
6 名古屋市	2,302,696	7,276	0.3%	-0.03%	-0.02%	0.04%	0.01%
7 さいたま市	1,272,716	6,921	0.5%	0.06%	0.05%	0.18%	0.03%
8 横浜市	3,732,539	4,926	0.1%	-0.02%	-0.01%	-0.02%	0.00%
9 吹田市	377,534	3,178	0.8%	0.18%	0.02%	0.38%	0.00%
10 流山市	178,063	2,989	1.7%	0.27%	0.11%	0.77%	0.03%
11 藤沢市	426,162	2,233	0.5%	0.06%	0.05%	0.22%	0.06%
12 越谷市	339,144	2,181	0.6%	0.07%	0.06%	0.20%	0.05%
13 柏市	416,383	2,062	0.5%	0.04%	0.03%	0.11%	0.07%
14 習志野市	170,715	1,902	1.1%	0.17%	0.03%	0.40%	0.03%
15 つくば市	229,451	1,893	0.8%	0.10%	0.09%	0.38%	0.09%
16 調布市	231,484	1,661	0.7%	-0.01%	0.04%	0.07%	0.00%
17 千葉市	974,335	1,637	0.2%	-0.01%	0.01%	-0.01%	0.05%
18 京都市	1,475,042	1,529	0.1%	-0.03%	0.00%	-0.06%	0.01%
19 市川市	485,178	1,601	0.3%	-0.11%	-0.03%	-0.13%	-0.03%
20 豊中市	394,529	1,522	0.4%	0.06%	0.05%	0.23%	-0.04%

流山市常住人口の推移



<論拠データ②>

整備を進めているが、需要に対して供給が追い付いていない

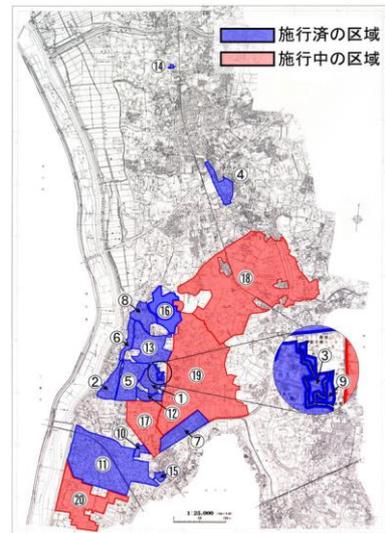
② -1 流山市区画整理地図.jpg (下図右)

<http://www.city.nagareyama.chiba.jp/life/30/227/001308.html>

② -2 おおたかの森小学校の児童推計.xlsx (下図左)

議会公開資料より

	小学校		中学校		全体	
	児童数	教室数 (A)	生徒数	教室数 (B)	合計教室 数 (A)+(B)	教室 不足数
平成28年	856	26	302	10	36	
平成29年	1016	30	359	11	41	
平成30年	1272	38	436	13	51	1
平成31年	1603	47	534	16	63	13



<論拠データ③>

流山市子ども・子育て会議 平成28年度会議録 アンケート集計結果

http://www.city.nagareyama.chiba.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/031/770/h28.siryou4.pdf

H28年 子ども子育て会議でのアンケート結果(自由記述回答)

http://www.city.nagareyama.chiba.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/031/770/h28.siryou5.pdf

(自由回答欄次頁)

★自由意見

関連する事業 (計画番号)	件数	主な意見
1 子育て及び家庭教育情報の提供	35	<p>・情報の発信方法の工夫をしてください。子育て施策について、いつからどのように活用、相談すればよいかわかりにくい。いろいろな施設があっても、情報が届いていないと感じた。支援について、多くの人に知られないと意味が無いと思う。</p> <p>・SNS等で情報をソートして入手できたら良いと思う。わかりやすい冊子を配布していただけたらうれしいです。保育園に通っている家庭に対しては、園からのお知らせに合わせて情報を発信しても良いと思う。</p> <p>・決して充実した環境にはないと感じています。いろいろな施策をしているようですが、あまり良く知りません。新聞を現在取っていないので、広報を見ません。市のホームページも、何か調べたい内容がある時だけしか見ないので、子育て関係の情報に触れる機会を少ないです。「知っている人」は母親だけでなく、もっと増やした方が盛り上がり、「流山ではそんなこと当たり前」と若者男女みんな認識していれば、足のついた施策、生きてくると思います。例えば、子育て支援の施策について、定期的にB4かA3の1枚でも広報できるものを作って、学校・幼・保・公共施設・医療機関、スイミングとか習い事のスクール、塾、ショッピングセンター、映画館など、誰もが一度は目にするような場所に掲示するとか。毎度全てを載せなくても、今回の目玉情報は、とか分かりやすく。市のHPにも載せて、気になる内容は調べられるようにしておくなど。せっかく流山に引っ越してきた方々に良かったと思ってもらえるように、以前から住んでいた者ですが願っています。</p> <p>・このようなアンケートをすることにより、支援施策を知ろうとするきっかけづくりにつながると思います。理解を深められるよう関心をもち、生活していきたいです。</p>
3 子育てガイドブックの発行	1	<p>子育てガイドブック、カラーが見えやすいと思います。</p>
8 保育所	54	<p>・育休明けに安心して職場復帰できるように、保育園の予約制度を導入してほしい。保育施設における環境の充実を希望します。園庭の確保や周辺の緑化。父母が送迎する際の駐車場や車寄せ施設の確保。給食施設の充実。</p> <p>・第一次審査に落ちた時点で相談したところ、市からは「特になし」との回答だったが、保育ママやファミリーサポートやその他の可能性を提示してほしい。</p> <p>・子どもが保育園にお世話になっており、とても良くしていただいているので、流山市の施策には概ね満足しています。</p> <p>・保育園のさらなる増加を強く希望。第2子出産時の第1子保育園継続期間が、原則第2子が1歳になるまで、延長しても1歳半になるまでとなっているが、1歳半時に第2子が保育園入園することは空きがないので、現実的には不可能。延長期限を「第2子が1歳になった後の次の4月まで」としてほしい。4月ならば、入園が現実的となるため。次の4月まで上の子が保育園に在園できると安心して2人目を作れて、うれしいです。</p> <p>・育休明けが必ずしも4月復帰とは限らないので、年度途中で入園できる枠を各保育園に設けてほしい。</p> <p>・公立の保育所での預かり時間を延ばしてほしい。</p> <p>・保育園もどんどん出来、未就学までの子育て支援は数年前に比べるとずいぶん充実したと思います。</p> <p>・入りたい保育園には入れない。保育内容や雰囲気等では決められず、「空き」だけが重要視されている。</p> <p>・現在の認可保育所に入るまで、2年間待機児童になっていました。流山市内の認可外保育園にも入れず、当該2年間は近隣の認可外保育所に通ったため、月10万円ほどの出費となり、大変困りました。流山市には妊娠する前から住んでおり、相応の住民税を払っていたので、ようやく恩恵を受けられる番だと期待した分、残念でした。保育園に入る基準に様々な要素があることは理解していますが、「母になるなら流山市」というキャッチコピーで移住された方が先に優先されて、そのおかげで以前から居住している人が待機させられるのは筋違いだと思います。これまで流山市に払った税金額を傾斜配分でポイント化するなりで、公平に還元されるしくみが今もないようでしたら、ぜひ、取り入れていただきたいです。2年目の申請のときは、交通の便などは考慮せず、書けるだけの保育園を希望したのに、叶わなかったため、審査基準に不信感さえいただきました。自分のポイント(保育の必要性)がいくつで、希望者の何番目を明示していただけたら、多少は透明性が高まるように考えます。</p> <p>・保育所の入所にあたり、2次募集があったというが、入所基準を明確にして周知してほしい。保育所から小学校にスムーズに移行できるよう、小学校での生活リズム入学にあたって必要なものを早めに教えてほしい。保育所ごとに、父母対象の説明会してほしい。入所の際、承諾通知が来るのが、入所月の数日前と非常に遅いのが困りました。たった数日で入所の準備をするのは仕事をしながらでは困難なことでした。</p> <p>・「流山なら保育所に入りやすい」と他市から引っ越してくる方も多くいる中で、昨年度より人口増加率は県内最高だと新聞で見ました。それに伴って待機児童も10倍になったと聞きましたが、私の友人で保育士の資格を持つのに、第2子が待機児童になるとは一体どういうことなのでしょう。潜在保育士ではなく、現役の資格を持っているのに、そういう人材の職場復帰を支援しないのはあまりにもひどい取り扱いだと思えます。それは早急に是正されなければいくら人口を増やしても意味がありません。</p>
9 送迎保育ステーション	7	<p>・送迎保育ステーションの利用制限が厳しい。(その割には近くの園には入れない。)</p> <p>・保育関連で、送迎保育ステーションのサービスはぜひ、今後も継続していただきたいです。</p> <p>・送迎保育ステーションがおおたかと南流山だけで利用できない。</p> <p>・たまに見るとたくさん子どもに対して大人2人対応とかして危ない感じがした。</p>
10 地域子育て支援センター	27	<p>・子育て支援センターなど気兼ねなく訪問できる環境にあることは、幼稚園に通う前のコミュニケーションづくりには良いことだと思います。支援センターやセミナーの充実はとても助かるし、楽しいです。さらなる充実を希望します。</p> <p>・支援センターを初めて利用する時に、実際利用している方のコメントが聞けたらもっと積極的にに行けるのではないかと思います。(どうい様子なのかかわからず、なかなか利用にいたらなかったの)</p> <p>・平日は子育て支援センターなどで遊べるのですが、土日祝日は空いていないので、いつも行くところがなくて困っています。子育て支援センターを利用したいが、車がないと行けない場所ばかりで困る。</p> <p>・松戸市の「ほっとルーム」のような子育て支援の施設をぜひ作ってほしい。</p> <p>・子育て支援センターは、施設ごとに利用方法が異なり、初めて行くときはとても困惑した。と言っても、保育園に問い合わせるのも職員さんの迷惑になるのではないかと電話しづらい。決まったフォーマットで利用方法を掲示してほしい。問合せ時間、対応時間も良い。たとえば、A保育園は、曜日によって対応年齢が異なるが、説明が足りない。B保育園は、イベント(体重測定やお誕生会)があっても来園できるといい点なのに、記載なし。</p>
12 幼保一元化	1	<p>・施設、スタッフにより、内容に差がありすぎる。いつもずっとアンパンマンマーチを踊るよりはわらべうたや昔のあそびを教えてくれる方が良い。保育所で年中以降、仕事を失うとそこから幼稚園に途中入園がしづらく、再就職活動もできなくなってしまう。幼保一体化がもっと進むことを願います。近隣市に比べてかなり使いづらい。(定員、アクセス)</p>
14 児童館・児童センター	13	<p>・児童館も各学区に一つかいあると良い。児童館が日曜も空いていると子どもの遊び場にできるので大変助かります。児童館等の駐車場をもう少し大きくしてほしい。児童館のイベントをもっと増やしてほしい。カルチャースクールのようなものを実施してほしい。全ての児童館に授乳室を設置してほしい。</p> <p>・児童センターでの連絡先の登録は面倒だと思いましたが。流山市の児童館は古く小さい建物なので、雨天でもどんな時間帯でも子どもがのびのびと遊べる施設があればよいと思います。</p> <p>・児童館を良く利用しています。職員の方が子どもの性格をよく把握して、声をかけてくださるので、親子共に安心して楽しんでいます。月に数回あるニコニコサロンでも歌やパネルシアターも季節感のあるものをしていただき、喜んで参加しています。また、それをきっかけに家で親子でやってみたり、会話のきっかけにもなり、大変感謝しています。</p>

3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。(必要に応じて図表を入れても構いません)

アイデア実現に向けては、Code For NAGAREYAMA が事務局となり、IODD (International Open Data Day) を軸としてアイデア創出～検討～実施までの流れを仕組み化、市民による地域課題解決活動が継続する流れを構築する。

1. 流山オープンデータラボ(データビジュアライゼーションサイト)

- 2017年1月 流山市オープンデータ利活用講座にて活用方法の事例を説明
- 同 3月 IODD2017にてリリース
- 同 データソン(データを利用したアイデアソン)実施
- 同 4月以降 紙面化

2. Humans of NagareYama ～流山の人々～

(流山で暮らす「人」のルポルタージュサイト)

- 2017年4月以降 ポータルの概要、構築を予定

3. 流山データ分析入門講座

(地域オープンデータ利活用フォーラム&ワークショップ)

- 2017年4月 入門講座開口に向け準備
- LOD(Linked Open Data 勉強会)

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性(例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で〇〇ということが実現できる」など)について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

● アピールポイント

本プロジェクトは、一つのアイデアで一つの課題解決をするだけに留まらず、市民自らが市民の意識啓蒙を行い、自らの抱える地域課題を解決していく「サステナブルな改善サイクルの構築」を思想の根本に置いており、成功すれば日本全体に展開でき得るという点で、社会に求められていると自負している。

● 制約条件

本プロジェクトは、まずは流山に流入する層を前提として、生活を取り巻く広範な課題を対象としている。それぞれの課題については、現状でも何かしらの取組や制度は存在するが、その前提が地域や属性、特定の課題などのみを対象とした「旧来の枠組み」の中で細分化されたものとなっており、現状の流入層がリーチすることができず、抱えている不満/不安を解消するものではない。

この「旧来の枠組み」は、従来 of 発展の中で効率的な形として構築されたものであったが、大きく環境が変化している現状においては必ずしも対応できているとは言えないが、ヒト(組織)/モノ(施設)/カネ(予算)が旧来型で割り振られており、この枠組みを維持しながらリソースを確保していくことが困難という点が制約条件である。

これに対し、市民の層(クラス)別に共通する課題を旧来の枠組み(地域や組織体など)を超えて配分されるようになれば、流入層だけでなく市民全体に展開でき得る点で発展性が見込まれる。